

共同運営部門：リハビリテーションセンター

—関係部署—

役 職	スタッフ名
リハビリテーションセンター長	伊豆蔵 正明
技術科長代理(理学療法士)	岡田 恭子
技術科長代理(理学療法士)	津野 光昭
主査(作業療法士)	安江 優美
主査(言語聴覚士)	一柳 律子

—概要—

リハビリテーション科では医師1名、理学療法士24名、作業療法士11名、言語聴覚士4名、事務員2名を配し、急性期の患者を中心にリハビリテーションを実施している。

リハビリテーション科の診療基準は、運動器リハ I、脳血管リハ I、心大血管 I、呼吸器リハ I、廃用リハ I、がんリハ I の施設基準を取得している。また土日、祝日の運用も行っており患者に対し、切れ目のないリハビリテーションの提供を行っている。

【理学療法部門】

理学療法部門では、各診療科において急性期の患者を中心に入院直後より積極的な介入を行っている。入院患者以外にも心臓リハビリテーションの外来を毎日実施すると共に患者の個々の運動能力に応じた運動処方を行えるよう心肺運動負荷試験(CPX)の実施も行っている。院内の活動では、呼吸サポートチーム、緩和ケアチーム、糖尿病教室や生活習慣病教室への参加を積極的に行っている。

【作業療法部門】

作業療法部門では、患者の日常生活動作の改善を目標にリハビリテーションを施行している。それと共に日常生活動作の方法を安全に施行する為のパンフレットの作成や福祉用具の紹介、提供も行っている。院内の活動では認知症ケアセンターへの参加を行い、認知症患者への介入も行っている。また褥瘡予防にも取り組んでおり、病棟スタッフへの研修会も実施している。

【言語聴覚部門】

言語聴覚部門では、脳血管障害の患者を中心に嚥下障害、高次脳機能障害、失語症へのリハビリテーションを実施している。院内の活動では、病棟看護師と協力し摂食嚥下療法にも取り組むと共に、病棟スタッフに対し摂食嚥下の研修も行っている。

—実績—

(表 1)2017 年度リハビリテーション科実績

	新患者数(昨年比)	実施単位数(昨年比)
理学療法部門	3,934名(113%)	76,612単位(104%)
作業療法部門	2,572名(120%)	40,913単位(110%)
言語聴覚部門	1,356名(110%)	11,198単位(93.8%)

各部門において新患者数、実施単位数共に昨年より増加を認めている。言語聴覚部門での実施単位数の減少は言語聴覚士1名の退職に伴う減少となる。今年度の特徴として救命診療科の依頼数増加しており理学療法部門で全体の35%、作業療法、言語聴覚部門では全体の50%前後となる。

—今年度の成果と反省点—

今年度の成果として理学療法部門では、各診療科において病棟責任者を置くことで医師および、病棟とのコミュニケーションの確立や責任の所在を明確にすることができた。また救命医療領域での入院当日のリハビリテーションの介入や外来心臓リハビリの稼働率を高い水準で維持することができた。作業療法部門では認知症ケアセンターへの参加や救命領域での人工呼吸器抜管後のせん妄に対する介入を行うことができた。言語聴覚部門では、摂食嚥下療法および高次脳検査の件数を増加させることができた。

—来年度への抱負—

来年度の抱負として理学療法部門では外来心臓リハビリの増枠を図ると共に高い稼働率を維持していく。作業療法部門では救命診療領域においてせん妄ハイリスク患者への介入を行っていく。言語聴覚部門では昨年と引き続き摂食嚥下と高次脳機能等の検査数の増加を目指していく。

リハビリテーション科全体では、各診療科、病棟との連携をさらに密にして包括的なリハビリテーションを提供していきたいと考えている。

